

無量壽となり。其うへ經文に。無量覺とあり。阿弥陁の三字に符合せり。善導は事相に約し。天台ハ理に約し。さて無量壽と。延命地藏とは。名異各別に。其利生利益は。同意なり故に。西方にあつては無量壽とも。阿弥陁如来と名娑婆世界に在ては。延命地藏たり。其例の經釈昔在靈山名法華。現在西方名弥陀。濁世末代。名觀音とあればなり。また阿弥陁無量壽と。地藏の延命は。衆生にあつては。息風たり。此息風の壽命は。衆生一世の延命壽たり。延命無量壽の功德を。後の世までも。結縁をうくる事は。阿弥陁の無量壽に。習有事なり。またこの延命壽」27ウは。佛にあるときハ。智体なり。此智体は。不生不滅の。全躰にて。心をもつて。心を傳るといふ事なるべし。阿弥陁ハ西方無量壽佛なり。地藏は二世の安樂の利益にて。延命地藏は。不老不死の地藏たり。十方佛土中なれば。延命は。天竺三法羅陀山において。其姿を出生なり。いまだ地藏正覺のなきことは。衆生流轉の期のなきがゆへに。六道輪廻さらにやまず。唯地藏は成等正覺のなきことは。世界の衆生心性を。開悟せしとき。衆生全く地藏の淨土なり。此時にいたつて。始覺本覺還同一致となりて。西方も此を去事速からずとの經文なり。爰をもつて。阿弥陁の。成等正覺も。三世に涉。十劫の正覺と經釈し。一立古今然の。淨土」28オといふなり。此ゆへに極樂は。三界の内にも。外にも。出入自在の西方淨土たり。さて地藏ハ二世の利益の有中に。娑婆世界。須弥の四州の。衆生を濟度なれば。無佛世界までの。利益とせり

第廿二 地藏尊一天世界照給事

扞胎藏現圖曼荼羅に。地藏左右の御手に。日月輪を居て。一天四海の闇を照し。衆生を養育あつて。國土を安樂に。したまふなり。密經に月輪の中に。訶字ありとなり。變じて。如意宝珠となり。如意宝珠は地藏ばさ

つとなり。地藏菩薩は宇賀神將たり。又宇賀神將ハ。一切衆生の壽福神となり。天にあつては。四天下の大闇を照。地にあつ」28ウては。堅牢地神なり。人間の元初胎内五体の始より。最後臨終の一念に至まで。現在未來壽福神と。なりたまふことをしらず。崇す尊ざるゆへに。宇賀神かゝつて。大荒神となり。給ふゆへに。災下禍の有ことなり。しかれども。衆生を哀み地藏と成たまひて。衆生をたすけたまふとなり

第廿三 地藏本地垂迹日本三神同五大尊之事

傳教慈覺大師。秘密抄に。日神は日光地藏となり。月神は。月光地藏となり。星神ハ明星地藏となり。また日神は。天照太神となり。月神ハ鹿嶋となり給ふ。星神ハ春日殊に。本地地藏といふなり。さて地藏の發心門の忿怒の形ハ。四面八臂降三世明王となり。地藏の修行門忿怒の」29オ形は。四面八臂軍荼利明王となり。地藏の菩提門の忿怒のかたちハ。六面六臂六足の大威德明王となり。地藏の涅槃門の忿怒の形は。三面四臂の金剛夜叉明王と名つけ地藏尊の内證は大日と現じ大聖不動明王は。地藏の忿怒の形なり。地藏尊ハ天に在ては。三光にあらはれ地に在ては。三神となり。中墓に在ては。五智とも五大明王ともなり。冥途に在ては。琰魔大王となり。今は六地藏と變じて。六道の苦を救給ふ是を人間にあつては。宇賀神となりて。貧窮の苦助給是を除蓋障地藏と申なり。西方淨土におけるは。阿弥陁如来となり。一切衆生を助極樂より出ては。地藏となりて。今生後生を助。衆生を引導ある。廣大の」29ウ慈恩たり

第廿四 地藏尊躰轉變而衆生利益之事

地藏本願經地藏發心經。琰魔天法と。地藏秘經の心は。地藏菩薩ハ。

聲聞の形像として・袈裟を着したまふなり・經に袈裟は是・解脱幢相・衣ハ生死解脱・慈悲柔和の衣なり・さて地藏の手の如意は・六道の衆生貧窮にして・福慧なきゆへに・生死の險道に入・衆生のために・福慧をあたへたまふ・錫杖の六輪は・六道輪廻の衆生に・日夜これにも・慈悲甚重を・施さんとすることなり・また占察善惡業報經に・佛今此衆の中に・ぼさつあり・名て地藏といふ・發心より以來・無量無邊不可思議・阿僧祇劫をすぎ・薩婆・30才若海を渡・功德を満足し・本願自在力をもつて・十方に應ずる・地藏となり・本誓願力は・速に衆生の所求を満じ・衆生の重罪を滅して・諸の障疑をのぞき・現に安穩をえせしむるとなり・扱勝軍地藏・破軍地藏・鬼神地藏・琰魔地藏・また延命地藏となり・又勝軍地藏は・軍を破闢に勝て・惡徒を降伏し・天下を謚にして・衆生の心を・靜にしたまふなり・延命地藏は・上諸佛より・下万民にいたるまで・不生不滅の心を・司どりたまふゆへに・延命地藏と申・延命地藏の心は・法性なり・法性は・虚空のごとし・虚空ハ無生なり・無滅にして・始もなく・またおほりもなし・虚空は動かず・動ざるハ・30ウ不動明王たり・不動明王をまた・延命地藏と名るなり・心の不生不滅なるを・延命のうへに・しるやいなや・又見やいなや・知もしらぬも・見ざるも見るも・ともに是・延命地藏なるべし・扱五塵六欲の林に遊て・人の心は・一日一夜に・八億四千の・心念みなもつて・生死流轉とはなるものなり・此元をしるを・延命地藏といふことなり・さて日光地藏は・多宝佛・月光地藏ハ・釈迦佛・明星地藏は・無量壽佛といふ・地藏の本地ハ・無量壽佛阿彌陀なり・又地藏の本地は・一躰三佛として・三佛一躰なれば・弥陀釈迦大日とおかむべし

第廿五 谷中感應寺京都壬生延命地藏移造立之事

爰に妙幢淨慧禪師は・四宗兼學にて・其行法堅固の「31才勤・殊に佛ぼさつ造立の志」は諸僧に超過して・武州に二度地藏の尊像を・丈六座像八尺に造立あり・一躰ハ武州東叡山の内に・たてたまふ所に・累焼せしを・また再興して・此尊像をば・他所に移・かさねて・壬生の尊像を・江戸谷中感應寺に・造立移ものなり・其尊像を・京都の佛師・法橋瀧河順正に・妙幢禪師四蓮の不著・雅丈なと心を合て命じたまへバ・順正も即六齊日を勤て・精進潔白にして・殊に脇士掌善・掌惡の兩童子・立像七尺五寸に成立せり・往古の佛師・定朝は・唯今の順正に・再来か・また三井寺の・快賢ハ・今日の妙幢禪師と・應化して・壬生の地藏を江戸に建立あつて・衆生濟度は・感應同交相分ば感應寺の地藏は俗諦・京の壬生「31ウの地藏ハ・真諦門にして・本躰分身・内證外用一合つとなり・また感應寺地藏は真諦・妙幢は俗諦・兩因相應なれば・全躰妙幢禪師は・地藏薩埵の悲願をあふぎ・男女に信心の利益を施さんことの・深重の誓願なれば・此一尊には・六地藏の尊形一躰に・出現の功德はあるものなるべし・さて地藏菩薩秘記に・弘法大師最勝王經の釈に・本地測難・又番迹・量難となり・南方の宝相佛・宝勝佛は・妙幢菩薩と變て・妙幢とは・地藏の異名なり・しかれば・今壬生のうつしを作・律師妙幢はその体各別にして・名は一名なれども・名躰不離と・見ときハ・地藏全・地藏を作なり・さては感應寺の地藏尊は・感應同交のゆへに・根本生身と・分身と・化身「32才形一躰に・顯座なれば・千百億の分身一身に今爰にましますなり

第廿六 壬生地蔵錫杖持給不思議之事

洛陽壬生寺は一條院の御宇に正暦二年に三井寺快賢僧都の草創せら